

第4回 青嵐中学校 学校運営協議会 議事録

司会：今井 記録：事務局 西澤

開催日：令和6年12月17日 14時30分から15時30分まで

開催場所：青嵐中学校視聴覚室

出席委員：今井文男 有本唯 高田進 尾藤一朗 ギログリー江美 加糠里香
湯浅泰美
(事務局) 佐久間豊 西澤大祐

議事

1. 校長挨拶 青嵐中学校校長 湯浅 泰美

近隣ではインフルエンザによる学級閉鎖・学校閉鎖が広がっているが、本校では元気に過ごしている。薬物乱用防止教室の取組では、3年生の向田さんが東京都から表彰された。一方で怠学傾向、関係機関と連携する生徒もいる。人権感覚や自然などをテーマにしながら、探究学習を行うための次年度の計画を検討している。

2. 学校より

「本校の教育活動について」 事務局 西澤

- ① 10月は合唱コンクールが行われた。生徒主体で運営され、3年生の合唱は素晴らしく、上級生として立派な姿を見せることができた。IJ学級の移動教室も行われ、貴重な体験をすることができた。
- ② 11月には定期考査が行われた。特に3年生は志望校決定、進路実現に向けてよく努力した。1・2年生でも放課後の「わくわく自習室」に多数の生徒が参加した。定期考査については、来年度は中間1日、期末2日の日程を検討している。
- ③ 12月は全校で三者面談を実施した。家庭と連携を取りながら、今後も教育活動を進めていきたい。
- ④ 3学期は、1月に小中連携の取組として部活動体験を実施する。また2年生で校外学習、1年生でスキー学習を実施の予定。3月の文化発表会は展示中心に開催される。

「学校評価アンケートについて」 青嵐中学校副校長 佐久間 豊

① 1学期の回答結果の分析

概ね良好な回答が得られているが、今後も改善に向けて取り組んでいく。

今後、委員のみなさんにアンケートを送り、ご意見をいただき、改善につなげていく。

保護者の回答率は50%程度。

今井文男（特任教授）

保護者にはわからなくて答えられない部分があるかもしれない。そのあたりが改善されると、回答率もあがるのではないかと。

3. コーディネーターより報告 西原みどり様欠席のため、別紙にて報告（副校長代読）

①10/18（金）「せいらんブックカフェ」実施

参加生徒191名。スタッフの動きも良かった。生徒も次回を楽しみにしている様子が見られた。学期に1回の実施を予定しているが、資金集めに苦慮し、課題となっている。

②11/24（日）「ほくっとまつり」実施

本校から5名の生徒がボランティアスタッフとして参加した。

③12/7（土）「避難所運営コンサート」実施

青嵐中学校避難所運営協議会のアピール。吹奏楽部の演奏、市民吹奏楽団とのコラボ演奏などを実施。

④今後の活動としては、3学期の自習室の開催、「ブックカフェ」の開催を予定している。

4. 協議

高田進（保護司）

薬物乱用防止教室の作品は東京都約8,000件の応募の中のトップの賞。お祭りでの吹奏楽部の演奏は大変好評だった。地域の活動として、自治会で27～29日に夜警を行う。

有本唯（警視庁巡査部長）

「ブックカフェ」「コンサート」など、徐々に根付いてきた印象。子どもたちの居場所づくりになるきっかけとなっている。幅広い年齢層が参加している中で、「振り込め詐欺」などの話ができた。吹奏楽部の片付けが大変そうだった。スタッフの必要性を感じる。

今井文男（特任教授）

子どもたちにも役割を与えながら、運営していくのがよいのではないかと。たくさんの参加によって、いじめや人権の問題も解消されるはずだ。「～はダメ」というネガティブなポスターは良くないとされている。向田さんの作品はポジティブでよい。

ギログリー江美（地域協力者）

コンサートに参加した。楽しそうに演奏している。子ども同士のやり取りも穏やかで健全だった。司会も子どもでよかった。出勤するときに（登校時間に）、青嵐中の生徒が一人で歩いている姿も見かける。「休まずに遅刻してでも行こう」という意思を認めてあげてほしい。

今井文男（特任教授）

「学校によく来たね（来てくれてありがとう）」と言う取組をしている学校もある。よいことに目を向けていくことが大切。子どもたちは大人から影響を受ける。大人の感謝する姿勢が大切。

加糠里香（PTA会長）

「ブックカフェ」にはPTAからも資金提供をした。「避難所運営コンサート」では簡易トイレや簡易ベッドなども見ることができて良かった。12月に貢献部の活動があった。ありがたい。

今井文男（特任教授）

避難所は避難してきた人たちが、自分たちで運営する。HUGなどをやるとよい。

尾藤一朗（同窓会幹事）

HUGをやったことがある。本番だったとしたら、運営がうまくいかないということを感じた。同窓会として資金提供の支援ができるかもしれない。

今井文男（特任教授）

新商品開発の意見交換など、たくさんの意見が出る方がよい。子どもたちの話し合いもたくさんの意見が出るとよい。

保護者アンケートも回答できるような質問になっているか、PTAでも検討してみるとよい。必要に応じて生徒にも聞いてもよいだろう。関係者でアンケートを作るとよい。

5. その他 今後の開催について

佐久間豊（青嵐中学校副校長）

今年度の学校運営協議会は小学校との合同開催で始まったが、小中学校で課題は違うので、第3・4回は別々で開催した。第5回が最後で、合同開催とする予定。

来年度はどうするのがよいか。

ギログリー江美（地域協力者）

校長・副校長が一つの場所に全員揃っていることが心配。学校の方は大丈夫か。

加糠里香（PTA会長）

議題や課題は違うので、連携は必要だが、開催は別々でも良いと思う。

高田進（保護司）

合同では意見を言う雰囲気になかった。和気藹々と話せるほうがよい。

有本唯（警視庁巡査部長）

それぞれの会合に参加するのは大変。数が減るのはよい。しかし基本は別開催で、必要に応じて合同にするのはどうか。

高田進（保護司）

合同のテーマのときに、合同でやればよい。

今井文男（特任教授）

CSの目的からすると単独が望ましいのではないか。

今井文男（特任教授）

次回は2/18に実施する予定。

以上